

舞う落ち葉に頬を斬られて先を急ぐ駅までをこの逆光の坂 加古陽

朝の出勤の場面か。正面から冬の朝日がまぶしく射している。「斬られて」に思いが読める。「逆光の坂」が位置をえて、切れ味のいい一首になった。

アルパカにつばを吐かれて濃厚な獣の臭いを我まといたり 佐佐木定綱

サファリパークらしい。ドジな目にあつた「我」をクローズアップして、軽い笑いを誘う。笑いを軸にみれば、「濃厚な」がポイントになる。アルパカはセーターなどでおなじみ。見た感じ羊の仲間みたいだが、調べてみるとラクダの仲間。ラクダがそうであるように、強烈な臭いの臭いを発するらしい。

ぞんざいな物言い会議に録られたり確かにこれはワタクシノコエ 鈴木陽美

この作者の今月の作はみな「声」を主題にしている。この歌は自分の声だが、他に正岡子規の声、高倉健の声、少年俳優の声、侍ジャパンのインタビュウの声の歌がある。意欲的かつ面白い試みとして注目した。ただ、この歌の下旬は、分かりすぎか。

君の窓へよじ登りゆく胡蘆の葉は君への愛をもらたすハート ラウル・ゲレロ

スペインのバレンシアで一人ががんばって日本語で作歌している作者である。「君の窓へよじ登りゆく胡蘆の葉は」という上句に注目。子供の時から日本語をしゃべる

## 短歌の現在

### No.395 今月の15首を読む

#### 佐佐木幸綱

日本人にはこうは表現できない。ハート型の葉をつけた胡蘆(ひょうたん・夕顔の古名)の葉が君の部屋の窓へはいのぼって行ったというのだ。

繰り返し教師は数ふ揺れてゐる薔薇に重なる子ども  
の数え 大塚泰子

薔薇が手前にあり、その向こうに小学生が集合している、そんな感じだろう、と読んだ。校庭か、遠足先の一場面だが、動きのとらえ方が新鮮で楽しい。

独り歩きまだ許されず一羽飛ぶ鳥を目に追ひ刻を見  
送る 久家基美

今月の一連によると、作者は救急車で運ばれて入院、九階の病室に入院しておられるらしい。自由に飛ぶ鳥とちがってベッドの上の生活。下旬「刻を見送る」に自由に歩けない自分にとっての「時間」が見つめられているようだ。

駅に来て小走りの人見かければわれも小走り君も小  
走り 藤島秀憲

気づいてみると、みな小走りだったというのである。一首に「小走り」という語を三回もつかつて、笑いの歌に仕立てている。「君」は特定のだからではない、と読むべきだろう。その小走り人である。

安全地帯に常に身を置き考へる沖繩のことオスブレ  
イのこと 由田欣一

先日、沖繩に行つたせいもあって、この作者の沖繩詠に目がとまった。私たち沖繩以外に住む者が沖繩問題を